

# センターだより

繋ぐ→支える→発信・リードする教育センター

特別号ⅩⅡ

平成24(2012)年4月日発行  
次田市立教育センター  
大阪府吹田市出口町2-1  
TEL 06-6388-1455  
FAX 06-6337-5412  
メール s-educ@suita.ed.jp

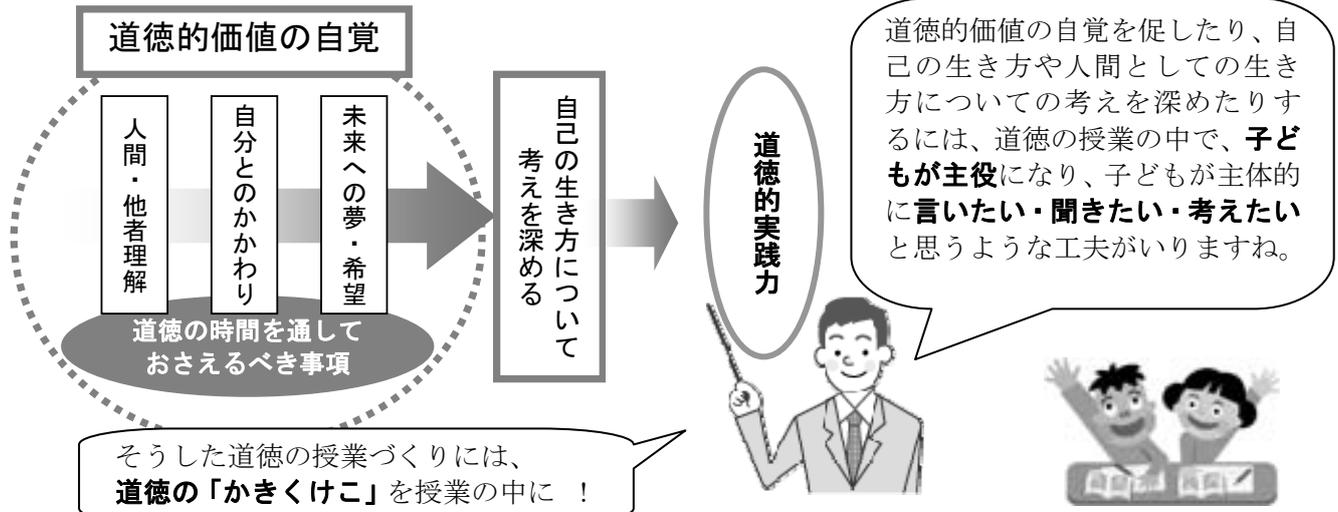
## 今日から始める道徳教育特集Ⅱ

「道徳の時間」の授業づくりのポイント

道徳特集第2弾では、「道徳の時間」の授業づくりについて発信します。例えば道徳の研究授業をするといっても、悩むことが多いですね。道徳資料はどんなものを選んだらいいの？授業づくりで気をつけるべきことってなに？指導案に決まりはあるの？取組の具体例ってないの？そんな疑問にお答えする道徳研究授業応援号です！

### 子どもが主体的に参加する「道徳の時間」の授業にするために

新学習指導要領で道徳の時間は、各教科・領域で行う道徳教育の<sup>かなめ</sup>要として位置づいています。道徳の時間では、**道徳的価値の自覚**と**自己の生き方**(※中学校では「人間としての生き方」)についての考えを深めていく必要があります。



### 道徳授業の「かきくけこ」

府教育センター平成16年度 道徳推進指導者研修 資料より

- か 感動・葛藤 (価値葛藤・心理葛藤) → 考えたくなる
- ↑
- き 共感 (的理解)・共育 (共に育つ)・疑問・気づき・驚き (既成概念・価値観  
砕き)
- く 食い込み (なぜ?どのように?を大切にした重層的発問・反問教師)
- け 経験化・体験化 (子ども一人ひとりの具体的生活) のふり返りと活かし

## ステップ①目標の設定

学校教育目標 ⇨ 道徳教育の目標 ⇨ 道徳の時間の各目標

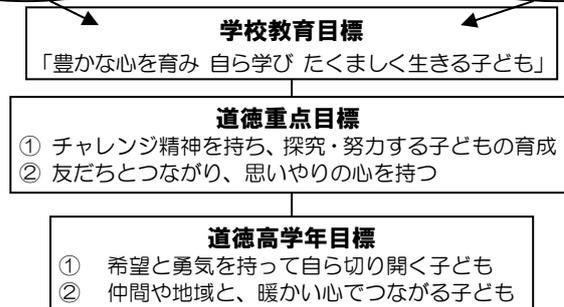
### □ 学校教育目標と道徳目標の関係

道徳の目標は児童生徒の実態や課題、保護者、教職員および地域住民の願いに基づいて設定された学校教育目標を具現化するものでなくてはなりません。A小学校では道徳の重点目標と高学年目標を図のように設定しました。

地域・保護者・  
教職員の願い

#### A小学校の例より

児童生徒の  
実態・課題



### □ 道徳の時間の年間指導計画をたてる

道徳重点目標を受け、力点を置く部分を考えながら各学年の内容項目の配当を決めます。

A小・6年生ではすべての内容項目(右表参照)を学習するように計画を立てましたが、特に重点項目とかわりのある [1]-②、[1]-⑤、[1]-⑥、[2]-②、[2]-③、[2]-④に力点を置くことにしました。

### □ いよいよ、授業の主題・ねらいの設定

次に1時間の授業の主題とねらいの設定について考えてみましょう。まず、内容項目のどこに着目するかを決め、主題を選定します。そして主題を具体的に表現した言葉として1時間の授業のねらいを決めます。次に、ねらいを達成するための資料を選定します。その際、①ねらいとする力を資料の中のどの部分で育むのか ②「道徳的心情」「道徳的判断力」「道徳的实践意欲」「道徳的態度」のどれを育むのかを明確にしておくことが大切です。

#### [1] 自分自身

- ① 生活習慣・節度・節制 ② **理想・努力・勇気・希望・不撓不屈** ③ 自由・責任 ④ 誠実・明朗 ⑤ **創意・進取** ⑥ **個性伸長・向上心**

#### [2] 他者との関わり

- ① 礼儀 ② **思いやり・親切** ③ **友情・信頼** ④ **寛容・謙虚** ⑤ 尊敬・感謝

#### [3] 自然や崇高なものとのかかわり

- ① 生命尊重 ② 自然愛・環境保全 ③ 感動・敬虔

#### [4] 集団や社会との関わり

- ① 公德心・規則尊重・権利・義務 ② 公正・公平・正義 ③ 役割・責任 ④ 勤労、社会奉仕 ⑤ 家族愛 ⑥ 愛校心 ⑦ 郷土愛・国を愛する心 ⑧ 国際理解・親善  
(小学校高学年 内容項目)

#### 具体例

A小学校・6年生では先の力点を置いた項目に着目し、主題を「**希望を持って努力する**」(1-(2)希望、勇気、不撓不屈)とし、今回の授業のねらいを「**理想に向けて努力しようとする道徳的实践意欲を育む**」と決め、このねらいを達成するために導入・終末部分で、『夢に届くまでのステップがある』(心のノート)を活用し、展開中心部分の資料として「イチロー 果てしなき夢—少年の想い遥かに—」(学研)を活用していくこととしました。

### □ 学校行事・学級活動との関連を図る

上記に述べた重点目標に上げられたこれらの指導項目については、この1時間の道徳の時間の指導だけでなく、学校行事や学級指導場面での指導と関連づけながら「より高い目標に向かって努力する心・態度」を育成していくことが必要です。

## ステップ②道徳授業の資料を選ぶ

## どんな活動で目標に迫るか

道徳の時間において、児童生徒が道徳的価値の自覚を深めるとともに、そのことを通して自己の生き方・人間としての生き方についての考えを一層深めることができるような資料を選ぶことが大切です。そのためには、教師自身が、日頃から報道や書籍、身近なできごと等に強い関心を持ち、柔軟な発想を生かし、児童生徒が多様な形態で学べるように資料を選びましょう。具体的には次のような観点で考えます。

### どのような資料を

- ☆ 読み物資料  
(物語、伝記、絵本、古典、民話、詩歌など)
- ☆ 地域の文化やできごと等に取材した郷土資料
- ☆ 体験活動を生かす資料
- ☆ ドキュメンタリー映像

### どのように提示し

- ☆写真 ☆劇 ☆漫画 ☆紙芝居 ☆映像ソフト
- ☆ パネルシアター ☆ICT機器の活用
- ☆ 実際に地域住民に語ってもらう

### どんな活動を通して目標にせまるか

- ☆ 友達とのグループワーク
- ☆ ロールプレイ ☆疑似体験
- ☆ 話し合い(あるいは、ディベート)

### 資料の選び方のポイント

子どもが意欲的に取り組むためには、次の図の下段の要件を満たした上で、上段の要件を取り入れることが大切です。

また、**資料を選ぶ教師自身が感動を覚えてこそ、良い教材である**と言えます。

- ☆感性に訴え、感動を産む。
- ☆生きる喜びや勇気を与える。
- ☆よりよく生きることの意味。
- ☆道徳的価値の意義や大切さ。
- ☆悩みや葛藤、人間関係の課題
- ☆多様で発展的な学習が可能。

人権尊重・ねらいの達成  
子どもの興味や関心・発達段階  
多様な価値観・中立的

### 注意

道徳の時間に体験活動そのものや事前の説明会を行うものではありません。総合的な学習の時間や特別活動等で行う体験活動と関連づけ、その効果を生かして道徳的価値を深めることができるよう工夫します。

例えば、次のような授業です。

- ☆事前にその体験的活動の道徳的なねらいや意義を十分に理解させ、体験活動での道徳的実践につなげる。
- ☆事後にその体験によって感じたことを振り返り伝えることで、他者との体験の共有し、広い知識を得る。
- ☆活動内容と似た題材を使って相互の効果を高める。

そこでA小学校では、ねらいを達成するため、次のように資料と学習活動を決めました。

### 具体例

主題  
『希望を持って  
努力する』  
にせまるため

心のノート「夢に届くまでのステップがある」や、イチローの写真や動画、イチローが大リーグで活躍するまでの道のりを書いた読み物資料「イチロー 果てしなき夢一少年の想い遥かに一」(学研)を資料として活用していくこととしました。

ペアでの話し合い活動を通して目標にせまろう。

ねらい：理想に向けて努力しようとする道徳的実践意欲を育む

## ステップ③ 1時間の活動を構成する 例：資料を使った道徳授業の進め方

「1時間の授業の流れ」の組み立て方について、基本的な流れを簡単に紹介します。

(○取組の具体例  :A.小学校での例) ※留意点

【導入】主題に対する子どもの興味・関心を高め、ねらいとする道徳的価値の自覚に向けて動機づけをはかる。

- ねらいに関わる生活経験の話し合い
- 資料への導入
- ねらいとする価値への方向付け（教師の説話・写真提示・アンケート結果提示など）

具体例

【心のノートを活用】

「あなたは、どんな夢をもっていますか。」「あなたは、生き方にあこがれる人はいますか。」

「この人は、誰か知っていますか?」「どんな人ですか?」

(イチロー選手の今活躍している写真・動画をプロジェクターで提示)

【展開】ねらいを達成するために、中心資料を用いて、一人ひとりに道徳的価値の自覚を深める

＜展開前段＞道徳的価値について追及

※ 多様な考え方・感じ方を引き出す

- 教師の発問に基づく話し合い(ペア・グループ・クラス全体)
- 役割演技など劇的な表現活動に基づく話し合い

具体例

【読み物資料「イチロー 果てしなき夢―少年の思い遥かに―」(学研)より抜粋し、自主作成した教材資料活用

『イチローが、メジャーで世界記録を達成できたのはなぜだろう。』(中心発問)

「小・中学生時代、夜遅くまで練習を重ねていたイチローは、どんな気持ちだったでしょう。」

「高校時代『イップス』になったときや、プロ野球選手になり、一軍と二軍を行ったりきたりしていたときのイチローの気持ちは?」(※イップス=送球恐怖症)

※読み物資料では、「登場人物」になりきって考え、主人公とともに心が揺さぶられる経験(共感・感動・葛藤)ができるような発問が大切です。登場人物の心の変化を尋ねる発問や行動を予想させる発問では、客観的に心情を分析することだけにとどまります。客観的に考える授業を重ねることは、教師の望む言葉探しの授業になってしまう危険性があります。

＜展開後段＞追求した価値を自分とのかかわりの中で深める

- 自分自身の生活経験(気づき・驚き・経験化・体験化)を想起しての話し合い

具体例

「その後も活躍し続けるイチローの姿から、あなたはどんなことを学びましたか。」

「あなたの生活の中で、最後までがんばってよかったなと思った経験はありますか。」

【終末】ねらいとする道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり温めたりして今後の発展につなぐ段階

- 教師がねらいとする価値についての体験談を語る
- 板書などを利用して、本時の学習を整理する
- 本時に学習した道徳的価値に関わる補助資料(偉人の名言・ことわざ、詩・児童作文)を提示し、将来に向けた実践への動機付けを行う。

具体例

・イチローの言葉「(いとも簡単にヒットを打つ選手を)天才というなら、僕は天才じゃないですよ」を紹介

・クラスの児童の作文(例:マラソン大会で頑張った)を紹介する。

・心のノート「私の夢」のページを記述し、自分の夢に向かって努力していこうとする気持ちを育てる

※終末では、ねらいの根底にある道徳的価値に対する思いや考えを整理しまとめたり温めたりし、今後の発展につながるように工夫します。しかし、望ましい価値観の押しつけや望ましい行為・行動の決意表明にならないようにすることが大切です。道徳の時間の目標は、道徳的实践力の育成であり、子どもの行為・行動の変容を即効的にねらうものではありません。(生徒指導との違い)授業が終わったときに、子ども一人ひとりに心地よさ・余韻・充実感を残すことができる授業を心がけていきましょう。

※教師が体験談を語るときは、ねらいに沿った体験談にする、発達段階を考慮する、美談に終始しないようにすることを心がけましょう。

★ここで紹介した流れは、あくまで基本的な流れなので、柔軟にとらえることも大切です。

※道徳の時間に活用する「読み物資料」は、ねらいとする道徳的価値にせまるための資料です。資料の内容を理解することが授業の目的ではなく、内容(主人公の心情・行動)を理解したうえで、登場人物の立場に立って、その心情や行動について考えることで自己の生き方・人間としての生き方について考える経験をし、道徳的価値への自覚を深めることが求められます。《国語の時間の話し合いとの違い》

## ステップ④ 道徳指導案を書こう

# 道徳 学習指導案

〈参考文献：道徳指導要領解説〉

一般的に指導案に書くべき内容については、下記の6点です。

- (1) 主題名
  - (2) ねらいと資料
  - (3) 主題設定の理由
  - (4) 指導区分
  - (5) 学習指導過程
  - (6) その他
- の6つです。

**主題名**：原則として年間指導計画にある主題を書く。  
指導内容が端的に示されたもの。基本的には主題名≠資料名となる。

**ねらい**：子どもに育みたい道徳的価値を書く。具体には、指導計画にある内容項目をもとに設定する。また、内容項目の記号を併記する。  
**資料**：ねらいにせまるために使用する資料名を記述する。(出典も明記する)

**主題設定の理由**：主に3つの観点から書く。

- ① **ねらいとする道徳的価値観について**…ねらいとする内容項目について、意義や教師の基本的な考え方  
ねらいについての教師の解釈と期待する子どもの姿 など
- ② **子どもの実態について**…ねらいとする内容項目についての子どものよさや課題、変容のようす  
子どもたちの生活実態などとの関連、今までの道徳や教科学習との関連
- ③ **資料について**…ねらいにせまるために、なぜこの資料が適切なのか、活用の理由(資料の特性)  
資料を用いて、どのようにねらいにせまるのか、活用の仕方や指導の工夫(指導の方策)

**指導区分**：1つの主題について、2単位時間以上を充てて指導する場合に書く。  
それぞれの時間の内容と指導のねらいを明らかにする。

具体的な場面を  
想像しながら書  
くことが大切！

**学習指導過程**：ねらいにふくまれる道徳的価値について、子どもが内面的な自覚を深めることを目指し、  
資料や児童・生徒の実態に応じて、教師がどのような指導を展開していくのか、その手順を示すもの。

	児童・生徒の活動	指導上の留意点・教師の支援
<b>導入</b>	ねらいに向かうための方向づけ・動機づけをする活動を書く。	ねらいへ自ら向かうようにするための支援を書く。 また、準備物(配付・掲示)や配慮したいことなども書く。
<b>展開</b>	ねらいについて、様々な方法で追求できるよう活動を設定する。  この授業での主な発問(中心発問)  活動や発問に対する、予想される児童・生徒の反応を書いておく	資料をもとにねらいを追求していくための支援を書く。 多様な学習形態が考えられるが、その際の配慮や支援を具体的に書く。  評価：ねらいとの関連に留意しながら、子どもを共感的・肯定的にとらえ、指導に返すようにします。  後半では、追求した道徳的価値について、自分の将来に活かしたり、現在の生活をふり返ったりすることが多い。
<b>終末</b>	学習のふりかえり 道徳的価値について、自分の考えや思いをまとめる。	終末に別資料などを準備する場合は資料名・出典を明記 ねらいとする道徳的価値が児童生徒の心に響く工夫を！

**その他**：事前・事後の指導について、評価の観点(ねらいとの関連に留意する)、板書計画など、必要に応じて書く。また、重点的に取り上げる内容や、複数時間にわたって関連をもたせて指導する場合などは、全体的な指導の構想と本時の位置づけについても書く。

## 具体例

# 6年道徳 学習指導案

この例ではクラスや児童数、指導者などは省いています。また、1時間の指導内容であるので、指導区分もありません。

- 1 主 題：「希望を持って努力する」
- 2 ねらい：「理想に向けて努力しようとする道徳的実践意欲を育む」 1-(2)希望、勇気、不撓不屈<sup>とう</sup>
- 資 料：『夢に届くまでのステップがある』（心のノート） 『イチロー 果てしなき夢 一少年の思い遙かにー』（学研）
- 3 主題設定の理由：
  - ①ねらいとする道徳的価値について
 

小学校卒業をひかえた6年生の子どもたちには、将来へ向けて色々な夢を持ってほしい。中学生になると小学校にはなかった定期試験や部活動などが始まるが、そうした中学校生活の様々な場面で「がんばろう」という意欲を持つためには、子どもたちの夢が後押しするものだと考える。また、どんな人でも努力が伴わないと成功しないということを実感することで、努力の大切さや希望を持って困難を乗り越えることのすばらしさに気づいてほしいと考えている。
  - ②子どもの実態について
 

6年生になると、子どもたちは自分の夢について語ることは少なくなる。そうした子どもたちは、自信のなさや恥ずかしさから「なれるはずがない」「他の人にどう思われるか」などと考えていることが多い。また、子どもたちの中には、天真爛漫に将来の夢を語る子どももいるが、努力の伴わない根拠のない自信や具体的な努力の方法を考えていない子どもも少なくない。こうした子どもたちが、夢を持ち続けてあきらめずに努力を続けたイチローの生き方に触れることで、中学生に向けて自分の生き方について深く考えていくことができると考えている。
  - ③資料について
 

『イチロー果てしなき夢 一少年の思い遙かにー』は、大リーグのシアトルマリナーズで活躍するイチロー選手の少年時代から大リーグで世界記録を樹立する4年目までの記録である。この中で、野球に出会いプロ野球選手を夢見て練習する小学校時代、夢に向かって具体的な目標を持って努力した中学校時代、挫折も味わった高校時代、なかなか一軍にあがれなかったプロ2年目までのイチローを取り上げる。今でこそ華々しい活躍ばかりが取り沙汰されるイチローが、少年時代からずっと夢に向かって努力し続け、あきらめずに頑張る姿を取り上げることで、子どもたちが夢を持ち続けることや夢に対して努力する姿に対して共感することができると思う。また、導入では心のノートの『夢に届くまでのステップがある』を使い、あこがれの人や目標とする人を想起させ、自分の生き方と結びつけるようにしたい。

## 4 学習指導過程

	児童・生徒の活動	指導上の留意点・教師の支援
導入	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">自分の夢について考えよう</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心のノートに書く。</li> <li>・こんな人になりたい憧れの人について話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心のノート『夢に届くまでのステップがある』</li> </ul>
展開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">イチローがメジャーで活躍できたのはなぜだろう。(中心発問)</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『イチロー果てしなき夢(抜粋自作資料)』を読み、それぞれの場面でのイチローの気持ちについて話し合う。</li> <li>○小・中学生時代に遅くまで練習を重ねていたイチロー               <ul style="list-style-type: none"> <li>・絶対に野球選手になりたい。</li> <li>・野球が大好き。 ・野球が楽しい。</li> </ul> </li> <li>○高校時代『イップス』になったとき、プロ入りして一軍と二軍を行ったり来たりしていたときのイチロー               <ul style="list-style-type: none"> <li>・厳しい練習や挫折に耐え、あきらめず自分を信じている。</li> <li>・挫折や苦勞をしても、ずっと野球が好きだった。</li> </ul> </li> <li>・イチローがメジャーで活躍できた理由を考える。  <div style="display: flex; gap: 10px;"> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">野球が大好き</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">努力</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">練習</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">あきらめない心</span> </div> </li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">あなたの生活の中で、イチローのような経験はありますか？</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・好きなこと</li> <li>・努力していること</li> <li>・あきらめずやり続けていること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イチローについて知っていることを挙げさせ、日本を代表する野球選手であることを確認する。</li> <li>・資料を「小・中学校のイチロー」と「高校・プロに入ってからのイチロー」の2部に分けて提示する。</li> <li>・ペアで話し合ったあとで、イチローの気持ちをワークシートに書くようにする。</li> <li>・子どもから出た意見は板書し、整理しておく。</li> <li>・現在の華々しく活躍するイチローに対して、過去の挫折や苦勞に焦点をあてることで、野球への情熱や希望を持ち続けて前向きに取り組む姿に共感できるようにする。</li> <li>・ペアに短冊を渡し、理由を簡潔にキーワードで書き、黒板に貼るようにする。</li> </ul>
終末	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心のノートに、自分が夢にむかってやっていること、これからやらないといけないことを書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心のノート『夢に届くまでのステップがある』</li> <li>・夢や希望の中身は人それぞれ違い、どんな夢もそれぞれ大切だということに留意する。</li> </ul>

【評価の観点】イチローの生き方に触れ、自分の夢や希望について考えることができたか。(子どもの反応や活動の様子を見取ることで、今後の道徳の時間の指導につなげます。)

## ステップ⑤さあ、やってみよう！ 道徳授業の実践例

昨年度、吹田市内の小・中学校で行われた道徳の研究事業を2例紹介したいと思います。

授業者：西山田小学校 教諭 西澤 聖子 先生

主 題：希望を持って努力し続けることにより自分の成長に繋がる心情を育む

ねらい：失敗にくじけず自分に自信を持って挑戦したり努力したりする気持ちを育てる

1－（2）不撓不屈・努力

資 料：「百六十八センチのスーパーstarロベルト・カルロス」

6年生では挑戦する前からあきらめたり、失敗することをおそれ、失敗することが恥ずかしいとさえ思っている子どもたちが多くなる傾向にありました。また、自分の意志で動くことができず、周囲に流されたり、自分が苦手なことや困難に思える課題はさけてしまう子どもが多いという課題もありました。そこで、『自分でやろうと決めたことは、あきらめず努力し続けること。困難や失敗にくじけず、希望を持ってやり抜くことで必ず自分自身への成長に繋がるのだという心情を育てたい』と考え、主題を設定しました。

### 資料の概要

ロベルト・カルロスは貧しい家庭に生まれましたが、家族や周りの協力もあり、サッカーのクラブチームに入りました。ところが、体が小さかったロベルトは、はね飛ばされたり、試合に出してもらえないこともあり、悔しい思いをしていました。ある時ロベルトはついに怒りを爆発させました。しかし、自分を応援してくれるみんなの顔を思い出し、ここで負けてはいけないと思いました。それからロベルトは誰よりも練習に励み、とうとうブラジル代表に選ばれるようになりました。

## 授業展開

ロベルトの写真・映像を見せ、学習に関心を持たせる。



「すげえ～」「かっこいい！」

### 資料の範読

ロベルトの境遇を考えさせる。



静かに聞いていました。

資料から怒りを爆発させた後のロベルトの気持ちの変化を読み取らせ、ワークシートに書かせる。



「やってやる！と、思ったんじゃないかな？」

CD「歩み」を流しながら、ロベルトのメッセージをスクリーンに写し、授業の振り返り。



みんな真剣な顔で見っていました

事前に書かせた児童の夢をプロジェクタに映し、未来に向けて、希望が持てるようにする。



「へえ～、こんな夢を持ってるんだ・・・。」

### 発表

なぜ、ロベルトは練習に打ち込んだのだろう？



「ばかにした人を見返したい」「みんなの期待に応えたい」「応援してくれる家族のため」

たくさん手が上がり、いろんな意見が出ました。

西澤先生の発問がポイントを押さえていたので、子どもたちの反応もよく、積極的に意見も出ていました。終末にプロジェクタに映された「子どもたちの夢」では恥ずかしそうにする場面もありましたが、ロベルトのメッセージが映し出されると、全員の視線が集まり、とても深い印象を与えることができたと思います。この授業を通して、自分の夢や目標について考え、未来に向けて希望が持てるようになった子どもたちも多いのではないのでしょうか。

授業者：山田中学校 教諭 池上 奈穂 先生

主 題： 目指す自分に近づくために

ねらい： 自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求する。

1 - (5) 個性伸張・向上心

資 料： ため息（自主作成）

1年の2学期頃から自分の本当の気持ちをいえず、友人関係に疲れてきている子どもが出てき始めました。そこで、主題を「目指す自分に近づくために」に設定し、自分の気持ちに気づき、はっきり伝えることをねらいました。この授業は全2時間の2時限目に当たります。第1時では周りが気になり、行動と気持ちが逆になる矛盾と向き合い、自分と友だちと比べてみるために班で意見を聞き合い共有するを行いました。第2時では読み物資料から、主人公の葛藤する気持ちに共感し、ロールプレイを通して自分の気持ちを友だちに伝える大切さや心地よさを学びました。

### 資料の概要

自分の思いをはっきり伝えることが苦手な主人公、ぼくは同じクラスの山田にシャーペンを貸した。大切なシャーペンで本当は貸したくなかったけど、断り切れずに貸してしまった。でも山田にはルーズなところがあり、なかなか返してもらえず、1週間が過ぎた。とうとう、ぼくは勇気を出して山田に「シャーペン返してくれない？」と言った。山田は忘れていたことを謝り、夜に部活が終わってから家へ届けてくれた。

## 授業展開

1

前時 復習 「行動と気持ちあっているか？」  
友だちの目が気になって自分が思っていること  
出しにくい



モヤット!

2

自主作成教材資料「ため息」教師読み聞かせ  
ストーリーと主人公僕と山田君の関係性とぼくの気持ちの整理



生徒は、先生の範  
読をととても熱心に  
聞いていました!

3

ワークシートに書く(一人で考える)



「大切だから返して  
ほしい」「山田にはど  
うでもいいものでも、  
実はむちゃくちゃ大  
切なものなんだ…。」

4

1 ペアでロールプレイ  
2 前に出て、教師に対してロールプレイ



5

最後の僕の気持ち  
ワークシートに記入⇒発表(板書)



「ホッとした」  
「スッキリした」  
「もやもやなくなった」

6

今後、どのようにしていきたいか  
ワークシート記入⇒発表(板書)



「相手の気持ちになる」  
「はっきり言えば  
伝わる」

池上先生の音読がとても上手で、生徒たちはより深く内容を理解したのではないかと思います。また、ワークシートを活用し一人で考える場面、ペアによるロールプレイ、前に出て教師とロールプレイの活動等、様々な生徒の活動がありました。それが生徒の集中させるしかけであり、さらに心の変容をもたらすことになったのではないのでしょうか。

両教諭の授業の指導案はどちらも知恵の泉にアップしていますので、是非ご各校の実践の参考にしてくだ